ぎふ清流国体優勝・入賞おめでとう

今年９～１０月に岐阜県で開催された第６７回国民体育大会の本大会にお いて、優秀な成績を収められた市内在住の選手・監督にお話をお伺いしました。選手３名は功績が称えられ、１１月２５日、市役所で表彰式が 行われ、市から初となる香美市体育文化奨励賞が贈られました。

背景写真＝国民体育大会会長トロフィー。各競技ごとの男女総合１位の都道府県に授与され、写真は今回高知県が１位になった弓道競技のもの。

弓道少年女子遠的、近的２冠 奥村果穂選手

Kaho Okumura

物部町大栃在住。卒業した香北中ではバレーボール部所属。岡豊高校３年。身長＝１６４cm。

昨年の国体で、近的準優勝の奥村選手。今年は遠的と近的で優勝し、県勢弓道少年女子初の優勝と同時に、県勢弓道界初となる2冠の快挙を成し遂げました。

３人で競われる両種目で2番手を務めた奥村選手は、遠的の決勝戦では４射21点、28メートル先の的（直径36センチ）を狙う近的の決勝戦では４射中皆中と活躍されました。平日は2～3時間、休日は朝から晩まで練習し、年間を通じてほとんど練習を休むことはなかったという奥村選手ですが、焦りや重圧で、なかなか調整がつかずに苦労したそうです。

2冠についてお聞きすると、「今回の結果は自分たちの努力もありますが、何より私たちを支えてくださったたくさんの方々の力があってこその結果で、自分たちだけでは、ここまでこれなかっただろうなと思っています。本当に感謝しています」と、周囲に対する感謝の気持ちを話してくれました。また、小学校中学校と続けたバレーボールで培った体力・精神力が土台となったといいます。

奥村選手は、高校卒業後も弓道を続けていくそうで、成年女子の部での活躍が期待されます。

弓道少年女子 吉本幸雄監督

Yukio Yoshimoto

土佐山田町旭町在住（香北町萩野出身）。ペタンクでも活躍。高知北高校教諭。身長＝１７２cm

2冠の弓道少年女子を率いた吉本監督は、平成13年度より高体連弓道専門部強化委員長として国体少年男子・女子の強化にかかわってこられました。少年の部の活躍で、県勢弓道初の男女総合成績1位という快挙を成し遂げました。

吉本監督は、「明るく、楽しく、元気よく、常に笑顔で練習することと、環境づくりに努めました。選手全員が受験生のため、学校と連携し、進路最優先で強化に取り組みました」と話し、できる限り無理のない日程を組み、選手のストレス軽減と体調管理に気を配られたそうです。

「私は監督といっても、岡豊高校と高知西高校の指導者が手塩にかけて育てられた選手をお預かりしただけです。石元先生（岡豊高校弓道部顧問・土佐山田町神母ノ木出身）は山田高校弓道部の後輩で、15年前から共に国体強化に取り組んできました。高知西高校の顧問は私の妻です。石元先生は「今年のチームは優勝するだけの力があるので吉本先生を優勝監督にしたい…」と話してくれていました。私は石元先生が監督になるべきだと考えておりましたし、彼が最大の功労者だと思っています」と吉本監督。

弓道少年男子遠的優勝 小笠原兆志選手

Choji Ogasawara

土佐山田町楠目在住。卒業した鏡野中ではサッカー部所属。高知南高校２年。身長＝１６２cm。

国体初出場で、見事優勝した小笠原選手。３人で競われる弓道競技で1番手を務めた小笠原選手は、全試合で高得点をあげ、優勝に大きく貢献されました。遠的では、60メートル先の的（中心半径10センチごとに10点・9点・7点・5点・3点）を狙うため、小笠原選手が1回戦で出した４射36点（9・10・10・7）は驚異的な得点です。

平日は2時間～3時間、土日は4時間以上の練習を行っている小笠原選手に勝つための秘訣をお聞きすると、「試合を楽しむことです。楽しめば、自然と結果もついてくると感じました。また、チーム内で競い合うことで、楽しく試合に臨むことができました」と話してくれました。

苦労したことに関しては「団体メンバーには宿毛工業高校の選手と受験生がおり、土日や夏休み中の限られた時間内でしか調整ができませんでした」と選抜チームの調整の難しさを話してくれました。結果については、「遠的は優勝しましたが、近的は不本意な9位という結果に終わってしまいました。来年は遠的・近的の両方で優勝したいです」と、来年の国体に向けて抱負を語ってくれました。

カヌー少年男子8位入賞 小松和貴選手

Kazuki Komatsu

香北町美良布在住。卒業した大栃中では陸上部所属。高知海洋高校３年。身長＝１８０cm。

国体に初出場し、カヌースプリント カナディアンシングル500メートルで見事8位に入賞した小松選手。「競技を通じて努力することの大切さや、あきらめないことを学びました」と話してくれました。合宿では1日30kmを漕ぐハードな練習をこなしています。

初めての国体で緊張したという小松選手。今回の入賞に関しては、「高校からカヌーを始めて、国体で結果を残せて満足です。入賞したいと思う気持ちが強かったから入賞できたと思います。先生との入賞するという目標も実現できたので良かったです」とうれしそうに話してくれました。入賞は、予選で疲労が残っていたところ、台風の影響で、準決勝の日程がずれたことも大きかったといいます。また、「今年のインターハイの準決勝で負けて、このままではいけない。全身を使って漕ぐ意識を持って練習に臨んだ」と、悔しさをバネに、それまでの手漕ぎ中心のスタイルから、全身で漕ぐようになり、オリンピック選手の指導なども受け、腰を使って全身で漕ぐようになり、国体の準決勝ではインターハイから8秒タイムを縮め、2分3秒の記録を出しました。

☞ 市役所本庁舎１階の展示コーナーで入賞者の賞状や写真を 12月18日（火）から１月31日（木）まで展示します。